



# 絵本 で楽しむ郷土料理

## 大分市の立松食育研究所が制作

### だんご汁、やせうま…色彩豊かに

【大分】大分市王子西町の立松食育研究所は、親子で大分の郷土料理に親しんでもらおうと、食育絵本を発売した。今後もシリーズで制作する予定で、「さまざまな人に絵本作りに関わってもらい、伝承に加え観光などにも生かしたい」と話している。



大分に伝わる郷土料理を紹介する食育絵本

## 「伝承や観光に生かしたい」



大分の郷土料理をテーマに食育絵本を制作した立松洋子さん（右）と山元正夫さん

長年、食育や郷土料理の研究を続ける元別府大短期大学部教授の立松洋子所長（68）が企画。幼稚園などでの食育経験から「子どもにとって視覚や物語で語りかける絵本の効果は大きい」

と、教え子の父親で自主映画製作が趣味の山元正夫さん（68）同市数戸駅北町Ⅱに協力を依頼した。「おいしい冒険シリーズ」として第1弾は4冊が完成。「だんご汁」「やせうま」「地獄蒸し料理」「がめに」の4品をテーマにした。

6歳のまさとくんとう歳のゆめちゃん兄妹が妖精に導かれ、それぞれの料理の歴史や調理法、栄養や命のありがたさを学ぶ内容。立松さんがモデルのおばあちゃんも登場し、料理に関する後書きも添えた。山元さんは立松さんの意見を基にストーリーを考え、AI（人工知能）を使って挿絵を描いた。色彩豊かに丁寧に再現された料理はどれも美しいそう。今月末までに国東の「おとろ」や杵築の「うれしの」、佐伯の「くじゃく」など8冊を追加販売、12冊がそろっており、山元さんが6月14日から大分市内で、AIの使い方などを教える。さまざまな切り口の物語を通して、立松さんが調査研究してきた県内の郷土料理約50品の紹介を目指す。

立松さんは「小さい子どもや若い保護者に地域に伝わる食への関心を高めてほしい。観光業や行政にも働きかけ活用を広げたい」と話している。

絵本は、電子書籍サービスKindleで販売中。電子版は1冊450円、紙版は同1430円。

問い合わせは同研究所（090・33072・8097）。（三上奈穂子）



〔問①〕記事の内容をふまえて、次の文章の（ ）の中にあてはまる語句を書いてください。

○山元正夫さんは絵本の挿絵を描くために（ AI(人工知能) ）という最新のデジタル技術を使用した。この絵本は、電子書籍サービスの（ Kindle ）でも購入することができる。

○絵本は、6歳の( まさと )くんと5歳のゆめちゃんが( 妖精 )に導かれて郷土料理について学ぶという内容になっている。

○発売された絵本のテーマとなっている料理は、だんご汁、( やせうま )、地獄蒸し料理、がめにの4品であり、今後登場する料理には国東の( おどろ )、杵築の( うれしの )、佐伯の( くじゃく )などがある。

〔問②〕記事を読んで、（ ）の中に適切な言葉をそれぞれ①・②から選んでください。

記事の中で、企画者の立松さんは「小さい子どもや若い保護者に地域に伝わる食への関心を高めてほしい」という（ ①事実・②意見 ）を述べています。一方で、立松さんが「教え子の父親である山元さんに協力を依頼した」ことは、この活動に関する（ ①事実・②意見 ）です。

立松さんは県内の郷土料理50品を紹介することを（ ①目標・②予定 ）としており、まずは5月末までに新たに8冊を追加で販売する（ ①目標・②予定 ）となっています。

〔問③〕立松さんはなぜ、郷土料理を伝えるにあたって、言葉で教えるだけでなく「絵本」という形にしたと思いますか。記事の内容から分かる理由と、あなたの考えを合わせて説明する文章を書いてください。

小さな子どもや若い保護者に対して、「郷土料理は大切だ」と言葉だけで説明しても興味を持ってもらうのは難しいが、絵本にして豊かな色彩や楽しいストーリー（物語）として届けることで、子どもたちが五感（視覚）を使って直感的に料理に親しみ、自然と食への関心を高められると考えたからです。